

2017年度 決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2018年5月16日(水)
2. 場所 : 本社会議室
3. 質疑応答内容:

<Q1>

18年度の設備投資額とその内訳は？

<A1>

18年度の設備投資額はおよそ10億円であり、消化ガス発電事業や、グラスライニング製機器等を製造している播磨製作所への設備投資等が主なところとなる。

<Q2>

資料P.18) 中期経営計画について、海外売上高を2018年度25億円から2020年度110億円へと伸ばすとのことだが、見通しを教えてください。

<A2>

海外売上高110億円のうち、廃棄物処理関連が55億円、残り55億円は水処理関連である。廃棄物処理関連においては、英国、タイ案件の実現、水処理関連においては、ベトナム現地法人が積み上げている数字に加えて、カンボジア、ミャンマー等、面でもとらえた展開を進め、ODA や地元のパートナーとの連携による受注等を積み重ねて達成したいと考えている。

<Q3>

資料P.32) B-DASHについて教えてください。

<A3>

当社、日本下水道事業団、富士市での共同研究体の提案を国土交通省に採択された段階であり、正式契約後に建設を開始する。今年度中に施設性能確認を実施し、その後様々な実証を行っていく。但し、水素製造装置、消化槽等、個別の実験は当社にて実施しており、技術の確からしさについては確認しており、今回は個々の装置を組み合わせた実証を行う事業である。

<Q4>

資料 P.36) 神戸製鋼グループとの連携強化について、18 年度以降新たに取り組まれる内容があれば教えてほしい。

<A4>

下水汚泥燃料化によるエネルギー利用については、現在研究段階であり早期に神戸製鋼とともに実現していく。水処理関連においても低 LCC に向け各種開発を実施しており、グループ技術の活用としてエネルギー回収技術や、ICT・IoT 等、18 年度は商品化に向けた取り組みを実施していく。

<Q5>

資料 P.3) 不適切行為に対する再発防止について、試験検査データの記録に関する自動化推進とあるが、これはすべての事業所に導入するのか？導入時期も含めて教えてほしい。

<A5>

自動化推進については、不適切行為が確認された分析試験部門を中心に検討しており、自動化が適用できる作業については、目標として上期中の実施を考えている。

どうしても自動化できない作業については、作業マニュアルを遵守させ、同様の事象を繰り返さないように徹底していく。

<Q6>

資料 P.3) 不適切行為に対する再発防止について、品質環境管理部並びに品質監査室を新設とあるが、監査の頻度など、実際の運用を教えてほしい。

<A6>

品質環境管理部、品質監査室を設置し、ここを核として今まさに監査を含めた品質保証体制を構築しているところである。

概要としては、確実なサービス・製品を提供していくための品質管理手順を各部門で策定し、管理責任者を定めて仕事を進めていく。その管理責任者と品質環境管理部の責任者が、連絡会を月 1 回程度開き、管理手順の適切な遂行、管理手順の改善点等について意見交換を行っていく。

監査については、半年に 1 回というレベルでの実施を考えている。

<Q7>

神戸製鋼グループ会社の中には、今回の不適切行為が事業へ影響していると発表した会社もあるが、当社の事業への影響は？

<A7>

神戸製鋼グループの状況については、新聞情報の範囲で承知している。しかしながら当社においては、3 月 6 日公表以来、営業部門を中心とした顧客へのご説明、様々な調査・問い合わせへのきめ細やかなご回答をさせていただいており、新たな受注への影響に関する報告は受けていない状況である。

当然のことながら、今後の再発防止策についてのご確認に対し、丁寧にご説明させていただいており、顧客が今回の不適切行為を軽く甘く見ておられるわけではないと承知はしているが、当社としては丁寧に対応する中で、顧客から頂いている信頼は毀損されていないと認識している。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上